令和４年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 専任講師
氏名： 加藤　幸真

研究課題名	首都圏における地域スポーツの現状と各地域における課題の差異
研究目的及び研究概要	（１）研究の背景 　これまでスポーツ社会学および近隣領域において、地域におけるスポーツ活動は主要な研究トピックとなっている。しかし、地域スポーツを考察するうえで、各自治体を対象とした事例研究が多く蓄積されているとは言えず、また課題も少なくない（森川ら1988）。 （２）研究の目的 　本研究は首都圏の地域スポーツの現状と課題を明らかにすることを目的とする。地域におけるスポーツの現状や課題を考察するうえで、多くの世代や、地域のレクリエーション活動や健康政策なども調査し、考察を深める。研究対象地は、都市部と郊外という位置づけで東京都、山梨県、静岡県3つの地方自治体を選定した。まず都市部として東京都世田谷区を、そして郊外として東京都心から電車で約1時間半に位置する山梨県甲府市を中心とした山梨県および静岡県を選定し、引き続き事例を蓄積していく予定である。またコロナウィルスの感染状況も踏まえながら静岡県等、対象地を追加していく予定である。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【得られた成果】 スポーツ庁より部活動地域移行が発表される等、今年度は地域スポーツに関する話題が多く見られた。部活動地域移行を視野に入れ、その受け皿となる地域スポーツの指導者は、従来、学校部活動が担ってきた大半を担うことは可能かという視点より調査を実施した。コロナ禍であることも考慮し、調査はweb調査とした。 【今後の課題】 今年度は下記に記したように、関連学会において学会発表を行った。今後は、これらの発表を基礎として、論文作成に取り組んでいく。 【研究実績等】 今年度は下記の発表を行った。 ①加藤幸真・加藤秀治・上原優香・松尾絵梨子・錦織千鶴・齊藤将士・加藤研三、地域スポーツにおけるアンチ・ドーピング教育の重要性、第30回体力・栄養・免疫学会大会、2022年8月、青森県弘前市 ②加藤幸真・松尾絵梨子・三木二郎・齊藤将士・加藤研三・新井優太、コロナ禍における体育系大学生の余暇活動、日本レジャー・レクリエーション学会　第52回学会大会、2022年11月、埼玉県所沢市